



金目川水系流域ネットワーク

世話人会

せせらぎ通信

出前教室 金目川の自然

令和2年10月9日(金)



平塚市立山下小学校を金目川ネットワークの会員4人が訪問し、4年生を対象に、金目川についての出前教室を実施しました。

最初は「金目川の恵み・暴れ川の歴史・金目川の生物」という内容で、金目川にはアユやウナギが泳いでいて、他にも珍しい動植物が生息していること、金目川では昔から何度も洪水などの災害が起きていたが多くの人の努力で安全な川に変えてきたことなどをお話しました。

次は「**金目川の野鳥たち**」という内容で、会員が撮った写真や動画を見せながら、金目川に生息する様々な野鳥を紹介しました。子ども達は、身近な川辺にこれほどの種類の野鳥がいることは初めて知ったようで、珍しい生態を捉えた動画を見て声を上げる場面もありました。

最後は、会員による、「**カラクリ屏風の実演**」で、子ども達にもミニ版のカラクリ屏風を配って体験してもらいました。このカラクリが江戸時代から伝わっているものだと言明すると驚いていました。



また、会場内には、会員手作りの**神奈川県西部の立体地図模型**を置きましたが、休憩時間には子ども達とその周りに集まり、立体地形図を興味深く見たり触ったりしていました。神奈川県の中で、自分たちが住んでいる地域(山下地区)の場所、近くの川や山の大きさなどを実感してもらえたようです。



出前教室 金目川のひみつを探そう

令和2年11月13日（金）

再び山下小学校を金目川ネットワークの会員10人が訪問し、前回と同様4年生を対象に出前教室を実施しました。

今回は、生徒を4グループに分け、各コーナーを順番に巡り、実物も見て触ることが出来る体験型の教室として実施しました。

① 鳥コーナー

ビデオを見せながら、金目川に生息する様々な野鳥の興味深い生態を説明しました。珍しい映像に、子供たちが熱心に見入っていました。



② 植物コーナー

子供たちの前の机の上に金目川の植物を並べ、それらを触ってもらいながら、パネルで説明しました。ときどき、子供たちからも

「その草見たことある！」という声があがっていました。



③ 魚コーナー

パネルとビデオで金目川の魚類を紹介した後、体育館の外に置いた水槽コーナーで、生きている魚を、見るだけでなく触ってもらいました。ウナギやナマス、カニなどを初めて触る子供たちが、声を弾ませていました。



④ 石コーナー

机の上に金目川の上・中・下流のそれぞれの河原の石を並べ、川の流れの影響で石の形や大きさが変わってくることを説明しました。子供たちは、実際の石や川砂を触って重さや感触を確かめていました。

（関戸 恵介 記）



お知らせ

金目川水系流域ネットワーク（かなめネット）のホームページがリニューアルしました。

内容を充実させ、スマホにも対応しました。

URLを入力するか、

QRコードをスマホのカメラ

で読み込んでください。



18:08

kaname-net.org

三

金目川生き物観察会（2019年7月28日）

かなめネット

へようこそ！

金目川水系は、丹沢山塊に端を発し、金目川（かなめがわ）、水無川（みずなしがわ）、鈴川（すずかわ）などいくつもの川が合流し、最後は花水川（はなみずがわ）となって、相模湾に注ぐ。流域面積180㎢平方メートルほどの水系です。この流域には、まだまだ美しい水と緑、多種多様な生物、豊かな自然空間が残されており、人々の生活を支えながら、独自の歴史・文化を育んできました。

<https://www.kaname-net.org>

平塚市生物多様性調査に参加して

木村喜芳（相模湾海洋生物研究会）



図 1

金目川流域ネットワークのみなさまとは、一昨年から平塚市生物多様性調査で御一緒させていただいています。金目川は、学生時代に魚の調査を行ったこともあり、

思い出深いフィールドです。その後も調査や観察会のお手伝いで訪れていますが、今回 30 数年ぶりに改めて調査を行う機会となりました。コロナ禍での現地調査は、さまざまな制約を伴いましたが、興味深い発見も多く、その一部を御紹介したいと思います。

金目川の魚については、2016 年に齋藤和久さんが既報の資料を総括し、53 種類が記録されていることを本誌 44 巻に報告しています。また 2018 年には、西巻肖さんと北野忠さんが「金目川の魚類」を刊行し、これには 60 種類の魚が掲載されています。調査の積み重ねにより金目川から記録される魚種は増え、近年はとりわけ通し回遊魚※と国内外からの外来種の追加確認が目立ちます。

通し回遊魚のゴクラクハゼ(図1)は、1980 年代には、神奈川県内の河川では、とても「珍し

い」存在でしたが、2000 年頃から相模湾に流入する河川での確認例が増えてきました。現在は金目川水系でも中下流域にふつうに見られ、すっかり魚類相の一員として定着した印象があります。同様にカワアナゴやボウズハゼ、ヒナハゼなども近年、確認例が増加する傾向にあります。



図 2

国内外来種のカワムツ(図2)は、金目川では 2017 年に初めて確認され、前出の「金目川の魚類」で報告されました。同書には、生息水域が限られ、その数も少ないとの記述がありますが、今回の調査では、市内の数地点で確認され、採集個体も稚魚から成魚まで出現していることから、生息水域の拡大と個体数の増加がうかがわれます。

す。魚以外では、近年、国内各地で生息分布を拡大している外来種のカワリヌマエビ類(図3)が、多くの調査地点で多数確認され、その猛烈な勢いに驚かされます。

今回の調査では、研究活動の進展に伴う新たな知見が発表された魚にも注目しました。そのひとつがカマ



図 3

ツカで、本種は従来 1 種と考えられてきましたが、分類学的研究により 2019 年にカマツカから、ナガレカマツカとスナゴカマツカが分離され、それぞれが新種として発表されました。3 種には独自の自然分布域があり、神奈川県を含む東日本には、スナゴカマツカが分布し、他の 2 種は分布しないとされます。残念ながら、今回の調査で得られた標本は、いずれもカマツカ(図4)に同定され、移入によるものと考えられました。今後、近隣の水系も含めて過去の標本資料等を再確認する必要があります。

さて、この先、金目川の生きものはどうなっていくでしょうか？ 先述のような新参の種類の追加は、しばらく続きそうな気がします。また文中には触れませんが、希少種の動向も気になる場所です。いずれにしても、観察を継続し、その記録を残していくことが欠かせませんが、日頃から川を見つづけている金目川流域ネットワークのみなさまの活動が、これに寄与することを期待しています。



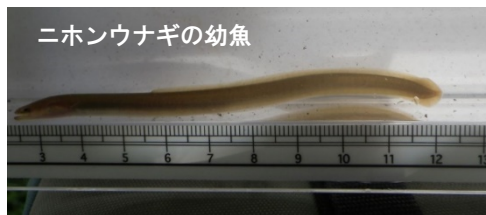
図 4

※ 通し回遊魚…ニホンウナギやアユ、サケなどのように生活史のなかで川と海を行き来する魚

ニホンウナギを守ろう！

ニホンウナギは淡水生態系のシンボル種！

柳川 三郎



ニホンウナギの幼魚

・金目川水系流域で最も広く分市している淡水生物で各所に分市しています。

・分市範囲の順位は①ニホンウナギ②モクズガニ③ヒラテナガエビ④スミウキ

ゴリ⑤シマヨシノボリ⑥ミナミテナガエビ⑦アユ⑧ヌマチチブ⑨ボウズハゼの順位です。

・ウナギの栄養は高い、初夏の土用の丑の日の貴重な蒲焼として高価な食べ物となっています。さらに、さまざまな地域・時代で食資源として利用されています。

・ある日、とれたニホンウナギをバケツに入れて蓋に石の重しをしたがその石を力でどかして逃げに行っていました。

・ある日、タモアミで大きな20mmの太いニホンウナギをとれて、嬉しくて、喜びすぎて、油断をしたら、ものの1秒の間にすると逃げられて素早さに驚きました。

・少年のころ、夕方、モジリにタニシをつぶして川藻とともに入れて、仕掛けて、夜行性のニホンウナギをとっていました、初夏の朝早くに仕掛けの中にピチピチしたニホンウナギを見るとうれしくってたまりませんでした、良きときでした。



金目川ニホンウナギ

・回遊生物にとって高い堰や構造物は負の相関があります。海と川の接続性が高いと回遊生物のニホンウナギにとってすみやすくなります。
(参考2020年5月29日プレスリリース神戸大学・東京大学・中央大学)



「湘南里川づくりみんなの会」の取り組みのご紹介



★ 渋田川下流見守りウォーキングを実施しました！ ★

湘南里川づくりみんなの会では、金目川の自然を愛し、人と川の繋がりを育む活動の一環として、湘南里川見守りウォーキングを実施しています。2020年12月28日、師走の冬晴れの中、鈴川下流の玉川橋から青井橋までの約4kmのコースで見守りウォーキングを実施しました。参加者は、湘南里川づくりみんなの会、金目川水系流域ネットワーク、ひらつか防災まちづくりの会などの団体や個人で総勢17名でした。

鈴川と渋田川が合流するところにある玉川橋に集合し、渋田川の土手を、立堀橋、新大堀橋、渋田大橋、鷹匠橋を経て青井橋まで歩きました。なお鷹匠橋は、鷹狩りを好んだ徳川家康の鷹匠たちが豊田と真土の地区の行き来しやすいように掛けられた橋で、そのことが記された石碑が建てられています。

新型コロナウイルス感染予防に注意を払いながら、野鳥、植物、魚類を観察、史跡の見学、川の浚渫の様子や地形観察など、話し合いながら理解を深めていくウォーキングでした。自然観察に熱心な参加者が多く、この日も力モヤサギ類などの野鳥や植物の観察に熱中する場面もありました。

渋田大橋から上流付近の土手は桜の名所として知られているところです。土手は地元の人たちの努力できれいに除草されています。水害の視点から平野を流れる渋田川は、河床に堆積した泥を浚渫する作業が進められています。自然環境の保全と自然災害にとどのように対応していくのか？ 次回の見守りウォーキングは、3月28日に秦野駅からくずのは家まで4.7kmを予定しています。

【湘南里川づくりみんなの会】担当



湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」を募集しています。詳細は、ホームページで！

お問い合わせ先

湘南里川づくりみんなの会事務局

神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課

電話 (0463) 22-2711 (内線 2111~3)

里川づくり

検索